

チエリツプ。
四季だより



新品種「春乙女」

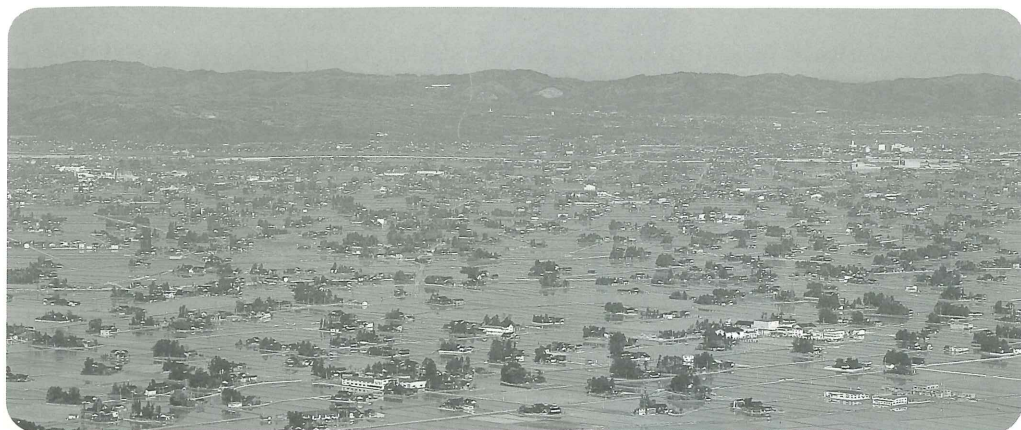
1999. 秋号
Vol.12

砺波小紀行

—日本のやさしさと美しさ—

安曇野ちひろ美術館

竹迫 祐子



▲砺波の散居村

車が好きて、仕事でも遊びでも、よく車を走らせる。北陸自動車道は、好きな道のひとつである。ここ安曇野からは、一度南下し、長野道の豊科インターチェンジから、上越道を經由して北陸道へ入るルートもあるが、私は白馬、小谷（おたり）と姫川沿いに下り、糸魚川から北陸道へ入る道が好きである。初めてこの道を走ったのは、昨年の正月。急に海が見たく、思い立って午後には家を出た。落日を追いかけると、北陸道を西に走って、海に陽が落ちたころ能登にいた。暖冬であったこの年の正月は、さすがの白馬、小谷にも雪がなく、穏やかな道中であった。北陸自動車道の富山インターチェンジを過ぎしばらく走ると、ふーっと視界が開ける。いくらか橙色を帯びた夕日が、きれいに刈り取られた冬の土色の田を照らす。広がる田の合間に点在する家。そして、木立ち。何とものどかで、温かな風景で、心に染み入るようであった。

この美しい景観を持つ地が、砺波という土地であることを知ったのは、しばらく後である。以来、四季折々に、道中砺波の景色を楽しみながら走っている。田植えを終えたばかりの水田に、青い空が映り込んだ初夏も、豊かな実りを誇るがごとく黄金色が波うつ秋も……。ここ砺波では、家々はそれぞれに「カイニヨ」という屋敷林を持ち、周囲の田圃を各戸が管理しながら点在する。その特有の集落形成は、「散居村」と呼ばれ、同地の長い農耕の歴史の中で、自然発生的に生まれて、江戸時代初期には今日の姿に形成されていたという。そしてこの八月、今を盛りに緑の稲が広がる夏の砺波を訪ねる機会を得た。八月七日から、チューリップ四季彩館で開かれた「いわさきちひろ複製画展」の折である。いわさきちひろは、絵本の世界を中心に活躍した女性画家で、終生、子どもを描きつづけた画家である。現在、私たちのちひろ美術館には、約八五〇点



▲いわさきちひろ「ききょうと子どもたち」1967年

の作品が残されているが、そのほとんどが子どもを描いた作品である。ちひろは、子どもを描く時に、様々な花を子どもに重ねて描くことがあった。例えば、「チューリップとあかちゃん」。輪郭線を描くことなく、絵の具のにじみが広がった先に赤ちゃんの肢体を描き出し、濃度の違う同色の絵の具を重ねて、ひざやひじのぷっくりとした膨らみをとらえる。

指の先にほんのわずかな赤みを挿す。こうして赤ちゃんの透けるような肌の柔らかさと温もりが表されていく。その赤ちゃんの手前には、ピーンとまっすぐに伸びた一輪のチューリップが描かれている。赤くビロードのように柔らかな花びらに、赤ちゃんの温かく柔らかな肌の感触が、また、すっと伸びた茎の力強さに、育ちゆく赤ちゃんの生命力が、象徴的に呼応して、見るもののイメージを広げる。それが、ちひろの世界である。今日、私たちが懐かしく眺める日

本の伝統的な風景は、古の人々による日々の暮らしの営みで生まれ、今日に至ったものだという。確かに、田の畦も、山への小道も、長く人々が使い重ねて生まれた風景である。古人が田をおこし、時に川の氾濫に飲み込まれながら、繰り返し田をおこし、その歳月の積み重ねが、今日、豊穡の里と称される砺波や安曇野の景観を生んだ。

かつて、ちひろは「どんどん経済が成長してきたその代償に、人間は心の豊かさをだんだん失ってしまう

んじゃないかと思っています。私は私の絵本のなかで、今の日本から失われたいろいろなやさしさや、美しさを描こうと思います。」(一九七二年)と語った。それから、四半世紀が過ぎ、新しい世紀を迎えようとする今、ちひろの残した言葉の重みが今更ながらに私たちにのしかかる。私たちは、美しい日本を大切にしていきたいだろうか？豊かな自然と、人としての堅実な営みを大切にしてきただろうか？子どもたちの育ち行く力ときらきと輝く瞳を大切にできただろうか？と。そんな思

いを一層に喚起してくれる、夏の砺波行きであった。

略歴

たけさこ ゆうこ

広島に生まれる。社会福祉学を学び、保育者を経て、一九八四年よりちひろ美術館に入る。館内の展示企画をはじめ、地方で開催されるいわさきちひろ展を担当。当館開催の戦後絵本の歩み展(一九八六年、一九八〇年代の絵本展(一九九〇年、一九八〇年代の絵本展(一九九〇年、一九八〇年代の絵本展(一九九〇年)等、絵本関係の展示を企画する。その他、「大正の童画展」(一九九三年八月開催・新宿三越美術館)、「ポロニア国際絵本原画展」の現代日本の絵本展(一九九四年四月開催・ポロニア)等の企画、開催に関わる。一九九〇年より学校図書館協議会主催の「よい絵本」選考委員を担当する他、「子どもの本だより」(徳間書店)をはじめ、新聞、雑誌などの絵本紹介を執筆。財団法人いわさきちひろ記念事業団事務局次長、安曇野ちひろ美術館事務局長兼学芸部長。



▲いわさきちひろ
「チューリップとあかちゃん」
1971年





農林4号「トナミ・シティー」



農林3号「プリンス・オブ・ニッポン」



農林2号「ウィスティア・メイド」



農林1号「サクラ」

富山県育成の新品種、『春乙女』は「おとめ」が、去る八月十三日にお披露目となりました。

この『春乙女』は、比較的数量の少ない紫の花色を持ち、茎、葉が強く花壇植え・切り花栽培に適した品種を作ることを目標に、昭和四十九年に富山県農業技術センター野菜花き試験場にて、促成栽培に適したトライアンフ群の品種、『Madame Spoor (マダム スポール)』と花色が藤桃色で茎葉が強い、同じくトライアンフ群の『Don Quichotte (ドン キホーテ)』が交配されました。そこで得られた種子を六年間養成した後、独自に選抜・検定を繰り返した結果、



チューリップ農林二十二号 「春乙女」

富山県農業技術センター野菜花き試験場(農林水産省チューリップ育種指定試験地)作出。
平成11年8月13日付で農林登録

藤桃色で茎、葉が強い系統「砺波育成104号」を優良と認め、平成八年から全国各地の試験場で地域適応性検定を行ったところ、優秀と判定され、今年の八月十三日付けで『春乙女』として農林登録されたのです。



▶平成九年に登録された農林21号「恋茜」



農林8号「神通」



農林7号「三姉妹」



農林6号「オトメ」



農林5号「クリスマス・レッド」



農林12号「紫水晶」



農林11号「五郎丸」



農林10号「白雪姫」



農林9号「薄化粧」



農林14号「紅輝」



農林13号「黄小町」



農林16号「初桜」



農林15号「紫雲」



農林20号「夢の紫」



農林19号「雪壺」



農林18号「紅豊」



農林17号「白雲」

『春乙女』の特徴

- ① 花壇植えとして数少ない藤桃色の花色を持つ。
- ② 花びらの乱れが少ない。
- ③ 茎、葉が強く、草丈の揃いが良い。
- ④ 観賞期間が長い。
- ⑤ 促成栽培でボリューム感のある切り花生産が可能。
- ⑥ 球根生産性が高い。

中国のチューリップ図鑑

「世界名花郁金香图集」

チューリップの原産地の一つである中国。これまで、中国におけるチューリップについての出版物はあまり知られていませんが、一九九七年に上海科学技術文献出版社より発行されたチューリップの図集『世界名花郁金香图集』をご紹介します。

この図集は、色とりどりの代表的なチューリップ四十七品種の写真と特徴が紹介されています。序章には、チューリップの植物学的解説や伝説、名前の由来とともに、世界最大の生産量を誇るオランダのチューリップにまつわる歴史、黒いチューリップをめぐる物語などが紹介され、著者である朱天明によって世界の名花、チューリップが中国でますます愛されることを願って行われたことが記されています。

この図集の中で紹介されている中国でのチューリップの品種名と日本で一般的に呼ばれている品種名とを比較すると、日本での名前と同じ読み方のもの、同じ意味を持つもの、花のイメージから付けられたものなどがあり、興味深い名前が数多くあります。そこで、その中のいくつかをご紹介します。



●蒙特卡罗

(meng te ka luo)

＝モンテカルロ(読みが同じ)

春の雨が蒙特卡罗の上に瀟瀟と降りそそいでいる。そして春雨が素晴らしい色彩を生み出し、透明な水晶の珠のような金黄色を醸し出している。蒙特卡罗は、あなたに、一幅の華やかで美しい絵巻物を見ているような気持ちにさせることである。(本文より)



●横滨

(hengbin)＝横浜(同名)

一つ二つの花は酒杯のごとく美しい形を持ち、まさにそれはチューリップの真の魅力そのものである。横浜は清々しい程真っ黄色の花色を持ち、その花が開いた様子は色鮮やかで美しく、華奢な葉は真っ黄色の夢幻さを際立たせているのである。横浜は、他に類を見ないほどすばらしい姿形をしたチューリップと言える。(本文より)

◆ ユイジンシャン
郁金香

〈yujinxiang〉

|| チューリップ

【読みが同じ品種】

● ハミルトン
汉密尔顿

|| ハミルトン



● マリリン
玛丽莲

|| マリリン



● タンホデ
唐・吉河徳

|| ドン・キ・ホーテ



【意味が同じ品種】

● シンシェイ
新设计

(訳) 新しいデザイン

|| ニューデザイン



● シンフワベンチュワン
幸福碰撞

(訳) 幸福にぶつかる

|| ラッキーストライク



● ウユエシヤツフ
五月时光

(訳) 五月の時間 || メイ・タイム



● シイデイエフジン シャオ
西点军校

(訳) ウエストポイントの米国陸軍士官学校 || ウエストポイント



● ミイラオシュ
米老鼠

(訳) ミッキーマウス

|| ミッキーマウス



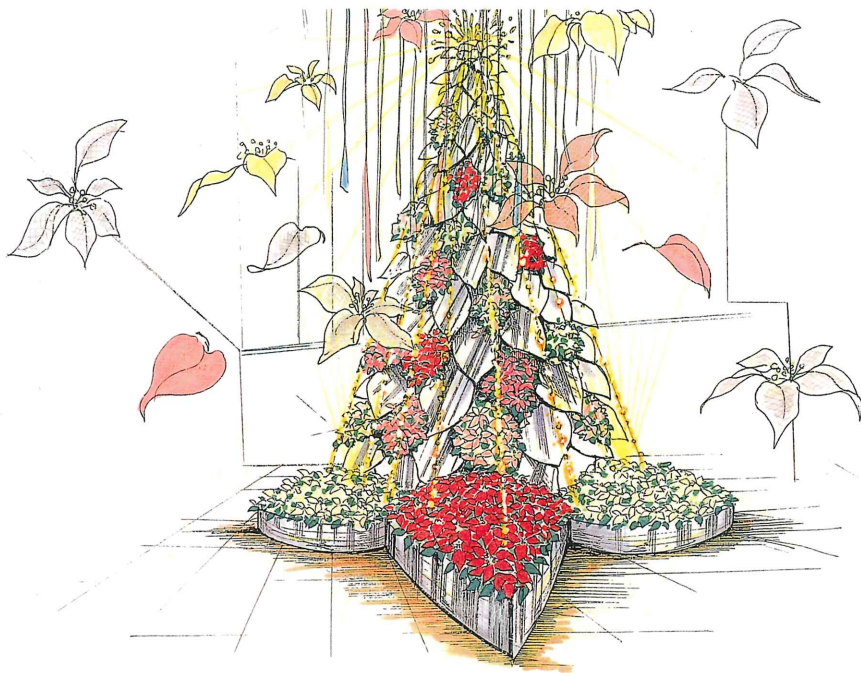
チューリップ四季彩館
からのお知らせ

★クリスマス特別展

『ポインセチア ショック』

期 間 平成11年11月19日(金)～12月28日(火)

場 所 チューリップテラス



★秋期特別企画展

期 間 平成11年11月19日(金)～11月28日(日)
午前9時～午後6時(会期中無休)

場 所 チューリップ四季彩館ホール



チューリップ四季彩館
TONAMI TULIP GALLERY

(財)砺波市花と緑の財団
〒939-1381 砺波市中村100-1 ☎(0763)-33-7716 FAX(0763)-33-0090
URL <http://www.city.tonami.toyama.jp/>
発行日 1999年10月1日